

必要がある。

これを達成するためには、要所に地域型研究機関（「地域センター」という。）を置く必要がある。この地域センターは、地域の特性を活かした研究や、その地域に深く関連する研究の拠点としての機能とともに、既存の研究機関及び研究領域の枠を越えて研究者の交流を促進する機能をもったものである。従って地域センターには、相互に利用し得る研究機器や研究資料を備える必要がある。

地域センターの規模・内容は、各地域の研究者の自主的・具体的要請によって異なるが、次のいずれかまたはこれ等を組み合わせた形態をもつ。

A 地域研究 (area studies) を主とするもの

B 大型共同利用機器を備えるもの

C 中小型の研究機器及びその他の研究設備を備えるもの

なお、設置形態は、国公立大学等の研究者が、平等に利用し得る国立の共同利用機関とし、官公庁・産業界にも自由に開かれたものを目指す。

会告

去る五月二十三日に開催された昭和六十二年度春季定例理事会・評議員会において、次の案件が承認可決されました。

一、昭和六十一年度決算報告及び昭和六十二年度予算案
一、役員交替

(1) 理事長越智武臣、理事岡部健彦、監事岩見宏、評議員岡崎敬、柴田三千雄、隅田哲司、高尾一彦氏の退任。なお大月明氏は死去されました。

(2) 理事長に藤縄謙三、理事に浅香正・桑山正進（共に評議員より）、監事に勝藤猛（評議員より）、評議員に伊藤貞夫・小谷仲男・夫馬進・堀井敏夫・向山宏・横山浩一氏を選任。

(3) 常務理事に大山喬平・河内良弘氏を選任。なお旧常務理事鎌田元一氏は評議員に復帰。

編集後記

残暑の候、会員各位におかれましては如何がお過ごしでしょうか。第七〇巻第四号をお届け致します。二箇月遅れの刊行となつてしまいましたが、論説三、研究ノート一、資料紹介一、書評二、紹介二と内容は多彩であります。充分御検討下さい。

編集委員の異動をお知らせします。此度、黒田明伸・利光有紀・元木泰雄の三氏が退任され、代わって松田隆典・美川圭両氏と小生が委員を務めることとなりました。

なお、このたび昭和六十二年科学研究費補助金「研究成果公開促進費」の交付が内定されました。（雅）

一九八七年六月二五日印刷 定価一〇〇〇円
一九八七年七月一日発行 送料五〇円

史 林 第七〇巻第四号（通巻第三四四号）

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

発行人 史 学 研 究 会

理事長 藤 縄 謙 三
振替京都七一一五五番

印刷所 中村印刷株式会社
京都市下京区七条御所ノ内中町五〇